

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者と職員が一緒に・ゆっくり・楽しく」を理念にあげている	○ その人らしく暮らしつづけていただく為やすらぎの場所の提供を心掛けていきます
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員がホームの運営理念を述べる事が出来常に運営理念の実現に取り組んでいる	○ 毎月の職員会議で初めに皆で理念を述べることにより新たな気持ちで理念の実践に取り組んでいけるよう心掛けています
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をホームの見やすい所に明示し、家族や地域の人々に分かりやすく説明している	○ ホームを訪問した家族や地域の人たち(小学生を含む)に分かり易く説明し、理解をしていただくよう取り組んでいます
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と洗濯物を干している時、散歩に出掛けた時は隣近所の方々と気軽に挨拶を交わし声を掛け合っ、行事がある時は知らせてもらっている。	○ フェンス越しからでも気軽に挨拶できるようになっている職員が多くなった
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(盆踊り等)に入居者様と一緒に参加させていただき、地域の人々と交流を深めている	○ 地域活動に参加して交流を深めている(職員の2/3が地域住民である)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の一人暮らしの高齢者を食事に誘うなどして、出来る範囲内で取り組める事はないか話し合っている。	○	数回こちらの誘いでおいで頂き楽しく皆と語りながら食事をしていただいた
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施により全職員が評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○	ホームの職員は自分の職業に自負を持って対応しているので、外部評価はより一層のサービスの質の向上に繋がっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事例報告を行った後意見交換をしてサービスの向上に活かしている	○	町の4施設の各報告はそれぞれが参考になったため、そこでの意見をサービスの向上に活かしたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者には、何でも相談に乗っていただいている。又他の会議にも参加したりして、町担当者と共にサービスの質の向上に取り組んでいる	○	町と共に常にサービスの向上に取り組む
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症の人と家族の会」の成人後見人養成講座を受講し、必要性のある人に話し合い又地区社協さんにも活用できるよう相談にのっていただいている	○	地区社協さん、市の社協さんに後見人制度を利用したい人の件で掛け合っている、待ちの状態である
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	病院内の勉強会に参加させていただき虐待防止を学び、当施設での虐待が見過ごされてないかも含め防止に努めている	○	利用者は、認知症であるため、不安そのものの人たちなので、常に「だめです。出来ません。いけません。」は禁句。常に受容のみを掲げているので、虐待は現時点ではありません

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は、利用者様や家族の不安や疑問点を尋ね、不安や疑問が取り除かれるまで、事業所の職員を交えて話し合いをしている。	○	契約や解約は十分な時間をかけて、職員や時には施設長も交えて話し合いを行っている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様から不満や苦情を受け入れ施設長参加のもと、家族・本人職員と話し合い、その後の運営に反映させている	○	話し合いの結果(今までに1件有り)お互いの取り違えと判明したが、その後の運営で話し合いの重要性を心掛けている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や、訪問する機会が少ない家族には電話でその時々状態を担当者と管理者、看護師等で対応している。職員の移動は家族会やホーム便り等を利用してプリントを配布している	○	マザーハウスでの仕事を生きがいにしている職員が多い為、退職や移動はあまり無い
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	13と同じ対応をしている	○	取り違い、勘違いなどのトラブルがないよう心掛ける
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議等で職員の意見等を聞きその場で皆で話し合う機会をもうけて、運営者に報告をし、すぐに対応が出来るようにしている	○	管理者と職員は距離が無い為常に職員の意見や、提案はその場ですぐに聞ける体制である
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化に応じて、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整を行っている。	○	施設の近隣に暮らす介護福祉士が週2回のパートで勤務可能な為、他に緊急時の対応もお願いしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者の為ホームの馴染みの職員の移動を行っていない。職員の事情でやむを得ない時は、速やかに、ホームの理念を理解できる人を採用しダメージを防ぐ配慮をしている。	○	特別な場合を除いて職員の異動や離職はしない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	ホームの職員の7割が無資格であったが、現在は全員有資格者である。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	地域の同業者と交流を深めサービスの向上に努める
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	運営者が常に職員全員に(そこここで会った時などに)やさしく労いの言葉をかけてくださることで、職員のストレス解消となっている
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	21と同じで、運営者より認めていただいている事により、職員は尚一層の向上心を持ってくれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	利用者との信頼関係づくりで「この利用者さんの信頼を裏切らない」と自負している職員が多い。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	利用者に対し人格を尊重し、言葉掛けやさりげない介助で対応しそのうえで家族に信頼を持っていただくよう心掛ける

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議で本人、家族出席のもとその時に必要としている支援を各担当者と話し合いをし、生活歴、ニーズ、状況などを考慮しサービス利用などの対応に努めている。	○	その時利用者にとって何が必要かをすぐに見極める事を心掛ける
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期の対応として、担当の介護者が常時ついて、入居者やサービス担当者に紹介をして慣れていただき、場の雰囲気に馴染んでいただいてから、徐々にサービスを開始していく工夫をしている	○	利用者は、認知症であるため、不安そのものの人たちなので、常に「だめです。出来ません。いけません。」は禁句。常に受容のみで安心していただく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ちあらゆる場面で助言や教えを受け、感謝の意を表したり、感心させられたことを素直に表し、入居者との信頼関係を築いている。	○	利用者は豊かな経験者であるため何でも相談をし、教えていただくという心構えをもち続ける
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	27・同様信頼関係を築いている	○	家族を「認知症の勉強会」等に誘って認知症の理解をしていただき、共に本人を支えていく支援を心掛けている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係の理解をふまえた対応を行い、本人は、穏やかに生まれ、又家族は安心して何回もホームに足を運ばなくてすむように支援した事で、家族より感謝されているケースがある。	○	家族が本人の暴言を極端に嫌がり、面会すら嫌がられていた。職員の優しさと本人の人格を尊重した対応で本人が大変穏やかに生まれ、家族も変わってこられた例ができた。今後も良い関係を支援していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以来、利用者のレベルが下がってきているが、馴染みの人であった時や、馴染みの場所に連れて行った時の表情は、ホーム内では見られないくらい素敵である。常にとまではいかないが、週に1回は馴染みの場所につれていけるよう支援に努めている。	○	週末の土、日は、ドライブをしている(行き先は利用者が決めるようにしている)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	喜びや楽しみを一緒に共有しあうようにしている。たとえば家事の好きな人は、仕事の提供をし、得意な事が成就した時は皆で喜び、小さなことでも感謝の気持ちを忘れずお礼を言うなど入居者に自信を持ってもらえるように対応している。	○	利用者が寂しがるときは、気の合う利用者の部屋で休んでいただいたり、利用者間で励ましたりできる対応を心掛けている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	例えば入院されて契約が終了しても、職員が代わる代わるの面会に伺い家族と共に励ましあっている。いつまでも大切な人達です。	○	何処にいかれても職員一同にとっては大切な人たちです。時々他の利用者と共に訪問しています
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりが自分のペースで暮らせるよう支援し、入居者の希望や関心ごとを出来るだけ引き出すように努力している	○	職員本位は利用者「させられている」と受身になる為、無理強いはしないで、出来る限り本人本位に生活していただいている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から若い時の生活歴を聞き、何をすれば本人が生き生きと得意な顔になり明るくなれるかを把握していく	○	入居者や家族からこれまでの生活歴や特技、経験等の情報を多く収集してケアに活かす様心掛けている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりの入居者の介護をしながら、又ある職員は対面キッチンで調理をしながら、入居者と話をしたりして行動や、様子を総合的に把握するように努めている。	○	一人ひとりの利用者の1日のながれのマニュアルに添って、現状把握に努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間では、定期的に会議を開催し又訪問した家族の方には、その都度困っている事等を聞き出して、必要な関係者と話し合い、その人にあった介護計画を作成をしている。	○	その日や、介護者によってケアのあり方が変わらないように、又利用者にとって必要と思われる介護のやり方を関係者と充分話し合うように心掛ける
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の心身に異変が生じた場合は、即座に家族と連絡をとり現状報告と対応などの説明を行い、現状に即した新たな計画を作成している	○	現状に即した計画を必ず作成する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者が安心して暮らせる為にはどうすべきかまず担当の職員がそれらを踏まえたうえで、ケアの実践を行い、個別記録に記入し、次の職員へ情報を共有できるようにしている。又介護計画の見直しにも活かしている	○	個別記録は毎日書き込み、支援経過は気づいた時に書き込むように心掛けている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院との連携を常に持ち即座に対応できるような体制が整っている	○	併設されている居宅介護支援事業所と常に連絡を取り合い、利用者に柔軟な対応が取れるよう心掛けている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホーム推進会議において担当の地区の区長や民生委員との連携を深めている。近隣の人や警察の方等には利用者の徘徊時にお世話になっている	○	地域の方々とはそれぞれの専門性を活かした立場で対応していただいている
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設されている居宅介護支援事業者や他の事業者等と常に連絡を取り合い、情報交換の連携を図っている	○	各利用者の入所以前の介護支援専門員と常に連絡を取り、情報交換の連携を図っている
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域ケア会議やグループホーム運営推進会議で地域包括支援センターとの連絡を図り、総合的にケアマネジメント等を協働している	○	権利擁護について、必要性のある利用者の為にケアマネジメント等の協働をする
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得のいく掛かり付け医と信頼関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	○	家族と本人の納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら医療を受けられるように、支援している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接している母体の病院では永年認知症患者専門の職務経歴がある医師が常勤している為気軽に認知症に関する診断や治療が受けられるよう支援している	○	利用者の家族や職員が、認知症の専門の医師による勉強会を受けて、専門医に安心して気軽に健康面について相談できる体制をつくる
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ちょっとしたことで利用者は気になるので懸かりつけ医に診て頂く前にホームの看護師に相談しながら、日常の健康管理の支援をしている	○	隣接している母体の病院の看護師にも気軽に相談できる
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院中は、利用者が安心できるように、病院関係者と情報交換や相談に努め、できるだけ早期に退院できるように努めている	○	利用者がいつ帰っても良いように早期退院に向けて部屋を空けて待っている
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方などは、早い段階から家族とかかりつけ医と話し合い本人にとって最期まで本人らしい生活ができるよう全員で方針を共有している	○	看取りのマニュアルに添った対応が出来ている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の方の出来る事、出来ない事を見極め、かかりつけ医とともにチームで支援している。変化がある時は、すぐに家族に連絡を取り対応などを知らせている。	○	終末期でもいつもと変わらず歩いたり話したり、制限や拘束はしないで見守るよう心掛ける
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の意向を常に大事にしているので、たとえ住み替えがあってもダメージは防げるように努めている。	○	たとえ住み替えでも、情報をこまめに入れることに心掛ける

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	思いやりのこもった言葉遣いを心掛けている。その方に合った対応ができるように記録等も配慮している	○ 常に言葉使いに気を配る。(記録も含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりが自分のペースで暮らせるよう支援し入居者の希望や関心事を出来るだけ引き出す努力をし説明を行い自分で自己決定できるように対応している。	○ 入居者に自己決定の支援をする(待ちの心で対応する)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所時より全員レベルがおちているが、したい事や出来るような事を希望に添って支援している。	○ 一人ひとりのペースを大切にする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時や誕生会等の行事に参加する時は、入居者や家族と相談しながら、おしゃれの支援をしている	○ 本人の馴染みの理・美容院へいけるよう支援している
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりの用意、テーブル拭き等を一緒にしてから食事の配膳も手伝ってもらい、その後共に食べるが、職員は食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなくおこなっているのと一緒に食事をしていても、立ったり座ったり、気配りをしながら楽しんで食べていただいている。	○ 利用者の話を聞きながら、職員も食事をしながらトイレ介助や食事介助をするので、どうしても利用者が早く済んでしまう。介助者は常に食事には時間がかかっているので良い対策を取り入れる
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特におやつは10時と3時に提供しているが、常に出したものは全部召し上がってくださるので、ホームではおやつを一番楽しんで下さっている。(職員が利用者と共に作るおやつが美味しいと)	○ 女子が多いためかタバコやお酒は嗜む人がいない。利用者はおやつを楽しみにされているのでバラエティに富んだおやつの提供をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用や排泄の失敗を少なくする為に、こまめに声掛けトイレ誘導を行って、清潔保持を心掛けている。	○	なるべく自立してトイレで排泄できるように支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝のバイタルチェックで健康状態を確認をし本人にも体調の具合を尋ねて入浴の可否を判断している。午後には行事や病院のリハビリ等があり時間的に余裕が無い時は午前の入浴に変更している。本人の希望を重視するが、衛生面、皮膚疾患の状況により毎日の入浴を勧める事がある。	○	その日の健康状態を確認しながら、できるだけ希望に合わせて、毎日入浴ができるように支援している
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の方はなるべく昼間の活動の場を作り、規則正しい一日の生活のリズムを整えられるように支援している。又一人一人の体調の変化を観察し、無理をしないで穏やかに過ごせる環境作りを心掛けている。	○	夜眠れない入居者には、なるべく日中活動できる場を多く作り、一日の生活リズムを昼中心にもっていく
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人から若い時の生活歴を聞きコミュニケーションをとりながら役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	利用者にとってスタッフと一緒に暮らせてうれしいと感じてもらえるよう言葉や態度に表し張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人の家族よりお小遣いを預かり、希望があれば一緒に買い物に行くなどして、欲しい物などを購入してもらっている。	○	利用者がおこづかいを持って、自立で買い物が出来る。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日には散歩や買い物の付き添い等で外出の機会を増やし、希望によってはコーヒー店に寄り添って支援している。	○	一日数分でも外出するよう支援する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	土、日はドライブに行き、目的地は利用者の希望や意見を取り入れて決定するように、又家族が「買い物や墓参り」等と一緒に連れて行ってくださる等の機会をつくっている。	○	季節の花見や、一年の行事の見学を利用者に決めてもらい、行きたいところへ皆さんでドライブする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望のある方は家族との電話対応で落ち着かれるため自由に利用してもらっている。要件のある方も同じく電話利用ができる。意思疎通が図れなくても満足されている方が多くなった。手紙のやり取りも、ほとんど全介助レベルで支援している	○	不安や、不穏がある時は、家族の声を聞く支援をしている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ほとんど毎日のように家族、知人等の訪問があるので、職員が感じ良い体制で応じている。	○	感じの良い対応で訪問者を歓迎する
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為は一切行わず、利用者の今の状況をありのまま受け止めて、その人らしく生活できるような対応を職員全員で取り組んでいる。	○	身体拘束はしない
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やb玄関の鍵は開けたままで自由に行動が出来るようにして、見守りを強化し転倒などに気を付けている。	○	よほどの事態が無い限り鍵は掛けない
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内での利用者の動きにも注意を払い、転倒等がないよう見守りながら、一人でゆっくり過ごす時間も大切にもらえるようにこころ掛けている。	○	プライバシーに配慮しながら利用者を常に見守る
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な薬や洗剤、刃物等の物品は、保管場所が決められ、管理方法も明確になっている	○	一人ひとりの個性と状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な勉強会で転倒、窒息、誤薬、徘徊、を防ぐ為の知識を学んでいる。火災に関しては、年2回の防火訓練時に火災を防ぐ為の知識を学んで事故防止に取り組んでいる	○	事故が起きた場合は事故報告書を作成のうえ、再発防止の検討や改善にむけて取り組む

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生に関しては定期的な勉強会、研修に進んで参加している	○	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練、避難訓練を実施し、その度に日頃より交流を深めている地域の人々の協力をお願いしている	○	地域の人々との交流を密にしておく(防犯協会・六日町消防団等)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	今現在の状況を家族に話し理解してもらって、対応策について一緒に話し合う機会を持っている。又了解の署名もいただいている。	○	利用者におこりうるリスクについて家族と職員に常に知っていただく対応をする
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	訴えのない利用者の少しの変化も見逃さないように、気づいた事や意見を出し合い情報を共有し、早めの対応に結び付けている	○	「心配り、目配り、心配り」の徹底をこころがける
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用する薬の目的や副作用について承知しており服薬管理簿や個人の管理箱を作り、服薬の誤りがないうよう対応している	○	薬の情報書をいつでも見れるようにファイルに閉じ、又薬の変更があった場合は、状態の変化を注意深く観察するように心掛けている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘時は薬にばかり頼らず、水分補給や、植物繊維を多く含む食品を摂って貰い、又散歩やリハビリ等で適度な運動を促す対応を行っている	○	便の管理簿で個人の便秘予防を支援している
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の義歯洗浄・うがい・週1回のポリデントで対応し、一人一人の残存能力を生かし、見守りにて出来ない部分のみ介助するように支援をしている。	○	口腔ケアについては、毎食後入居者の状況に合わせて、日常的に支援する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を常にチェックし、献立も栄養バランスを考えて作っている。3食の他に10時と3時のおやつ時間に足りない栄養分の補給を水分補給と兼ねて対応している。食事摂取時は、本人の残存機能に応じて見守り、どうしても出来ない部分を介助している	○	利用者は食べるのが一番の楽しみにしている。一人ひとりの状態に応じた支援を行う
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体病院と合同で感染症予防についての研修会が定期的に実施され、予防対策として手洗いやうがいが行われている。インフルエンザの予防接種も全員受けている。肺炎双球菌ワクチン接種も対応している。	○	勉強会等によって学んだ予防法や対策を職員全員で統一して実行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	母体の病院で実施される衛生管理研修会に職員が参加して指導を受けている。新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具は、手洗いをした上で食器乾燥機で清潔にし、食材は新鮮な物を購入している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関に通じる入り口が車道に面しているため交通事故等の危険性を回避する為アコーディオンフェンスの設置をしたが、家族、近隣の人たちはかえって安心して出入りが出来ると親しんで下さっている	○	利用者の安全を第一として、近隣の人たちも安心していただく対応を心掛けている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の上よみがなく、換気が行き届いている。採光や照明、冷房の温度調節も適切で、テレビの音量も控えめにしている。利用者や訪問した人も気持ちよように、臭いのしない空間作りを工夫している	○	共用の空間には季節の花を利用者と共に飾るなどして皆の目を楽しませ、清潔に保ち、又不快な音や臭いが無いように常に清掃を心掛けている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを用意し、テレビ観賞や談話等をして、思い思いのくつろぎの時間を過ごしてもらえるような場所の確保に努めている。	○	時には共用空間で何人もお泊りが出来る体制を摂る等、工夫している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用、愛着のある物を自由に持ち込めるように家族に依頼している。面会時には家族と過ごせる空間作りをされていたり、仏壇を持ち込み毎朝の水替えが日課となっている。	○	お泊りの家族は本人の居室で気楽に過ごせる体制を家族と本人で工夫されている(足りないものは無料で貸し出している。)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、廊下の窓を開けて空気の入替えをこまめに行い、冷暖房は利用者の意向と外気温に合わせて温度調節を行っている。	○	温度調節に関しては職員全員の周知徹底で行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりにより安全な歩行をし、又室内は家具の配置で出来るだけ自立した生活が送れるように支援している	○	利用者の残存能力を引き出す為に介護者はゆっくり待つ余裕で見守り、何が出来て何が介助が必要かを考える。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には写真入の表札を掲示し、部屋を間違えたりしないように、又常に整理、整頓をして落ち着いた雰囲気でお過ごせるよう配慮している。	○	それぞれの利用者の得意分野を活かした環境作り
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と共に洗濯物を干したり取り入れたり、箒を持って庭掃除をしたり、園芸を楽しみ、水まきをしたりしている。	○	庭で全員が参加し歌やお茶タイムを設け楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

国富町の中心地に近い母体の病院が隣接する利便性が良好な場所にホームは位置し、「私達は、マザーハウスにおいていただいた方々の声なき声をきき、見えないところを察して安心できるやすらぎの場所をつくります。」の高い理念を置き入居者と職員と一緒に・ゆっくり・楽しく暮らせるように常に明るくやさしい職員と一緒に幸せな生活を過ごしている。又母体病院が隣接していることから、気軽に健康面の相談やリハビリを受けることが出来、身体機能の維持向上に前向きに取り組んでいる。地域の老人クラブが主催する各種教室に参加したり、遊びにきたり立ち寄ってくれたり、ボランティアの受け入れ等、地域との交流を積極的に行っている。職員の献身的なケアと笑顔に支えられ、入居者は元気でいきいきと表情も明るい。